

## 熊本県立八代高等学校 平成29年度学校評価表

<b>1 学校教育目標</b> 「平成29年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を基盤とした本校の綱領である ・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere. ・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined. ・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded. を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。
--

<b>2 本年度の重点目標</b> ア グローバル人材育成 イ 授業改革（主体的・対話的で深い学びを実現するアクティブラーニングの視点・ICTの活用） ウ 発信力強化（ホームページによる効果的発信・メディア掲載）
---

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルの向上	○実践的英語発信能力の育成を図ると同時に、各種自己研鑽活動・社会貢献活動に自発的に参加する態度を育成する。 ○各種ビジネスコンテスト等の全国大会入賞、社会貢献・自己研鑽活動等への参加者延べ1200名以上を目指す。	・即興型英語ディベート、イングリッシュキャンプの実施、英検受検を推奨する。 ・各種講演会等（知の触発プログラム）を実施する。 ・グローバルアクション通信を発行し、自己研鑽活動等への参加奨励を行う。	A	・英語ディベートでは全国大会出場、上位入賞ができた。ビジネスコンテストの一つであるTTBiz2017で全国優勝をはたした。 ・生徒主催の講演会も実施できた。日程調整、予算確保に課題が残る。 ・自己研鑽活動等に延べ1238名参加し、目標を達成することができた。
	発信力の強化	◇ホームページによる効果的発信／メディア掲載	○教職員一人一人が発信者となり各人が学校の魅力を発信する意識を高める。全職員、年に1回は発信する。 ○発信は迅速性と適切性に配慮して行う。	・行事関係部署の担当者は、発信をイメージした仕事の段取りを行い、行事は発信するまでが行事という意識を持つ。 ・受信者は主に保護者、生徒、地域の方々、教育関係者ということを考慮して発信する。	B	・HPへの発信回数は1月末現在で120回であったが、職員別の発信は48人中31人であった。 ・迅速性と適切性はあったが、発信者に偏りがあるため担当する仕事に発信の観点を定着させる必要がある。
学力向上	教師の指導力向上	◇アクティブラーニングの視点、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業改善	○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が70%を超える。	・授業力向上のため、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ研究授業を各教科年2回実施する。	B	・学校評価における、「言語活動の充実」に関する肯定的生徒は71.1%であった。 ・研修で各職員の授業改善の取組を発表し共有した。
	生徒の自発的な学習の促進	◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進	○自ら進んで世の中の課題を発見し、その解決を図るために必要な深い教養と豊かな知性を育む。 ○学年ごとの目標学習時間を設定し、80%以上の生徒が目標を達成している。	・シラバスの活用や適切な課題の配付を行い、学習習慣の確立に向けた指導を行う。 ・年3回、期末考査前に学習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。	C	・学校評価において、目標とする家庭学習時間を十分またはある程度確保できている生徒は41.4%であった。学習時間確保につながる仕掛けや課題提出の粘り強い指導、共通理解を持って適切な内容・量の課題を課すことの研究が必要である。
キャリア	新しい大学入試に対応できる学力を身につけさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの完成	○新テスト導入に備え、求められる学力を育成するための6年間の指導方針を完成する。 ○進路指導部、学年、各教科が連携し、生徒が志を高く目標を設定し、維持する態勢を作る。	・自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供。 ・全職員が最新の入試動向を理解し、大学入試問題の解答力を身につけ、指導に役立てる。	B	・6年間を見通したグランドデザインの再構築が作成途中である。 ・生徒が志高く目標を設定し、第1志望を堅持してやり抜く姿勢を指導するための仕掛けはいくつか行えた。職員の指導態勢をさらに整えることが課題である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
教育 (進路指導)	生徒の進路観、職業観の育成と志望大学選択の指導	◇Classiを活用した個人の活動体験データのポートフォリオ形式での蓄積	○志望大学を決定させ、個人個人の将来の学びの設計まで考えさせる。そのために在学中に社会に目を向け、内包する様々な問題に気づかせる。	・ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。	A	・Classiを導入し成果が上がり、学校訪問が増加した。活用を深めるための具体的な手立ての構築が必要である。 ・講演会や各プログラムの参加者が増え、結果を残している。さらに他部署と協働して生徒の志望決定を助けることが課題である。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	◇自ら適切に判断し、行動しようとする態度の育成	○自己教育力を身につけ、常に5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髪の整美ができる生徒の育成し、3学期までに整容指導対象者ゼロとする。	・全職員共通理解のもと、不公平感のない指導を行う。 ・生徒が自ら考え行動する機会を提供する。 ・朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。	B	・全職員共通した基準で整容指導を実施できた。 ・登校指導を継続して実施でき、挨拶や服装整美、時間厳守に貢献できた。
	生徒の危機管理能力の向上	◇交通マナー向上、交通事故の防止 ◇情報モラルに係る危機管理能力の向上	○今年度の交通事故件数を15件以下にする。 ○ネット上の問題事案をゼロにする。	・登下校指導を定期的に行う。PTAと合同登校指導を学期毎に行う。 ・情報科と協同してネットモラルと危機管理能力を向上させる。	C	・PTAとの合同登校指導だけでなく、随時下校指導も実施し、下校時刻の遵守、交通マナー指導を継続できた。交通事故件数は昨年と同じ17件であった。 ・スマートフォンの校内使用が目立った。
人権教育推進	人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成	◇地域の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組	○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し人権教育を推進する。	・年1回、各学年単位で人権部落問題学習を実施する。 ・年2回、校内人権集会を実施する。 ・地域主催の人権集会や各種研修会に1人1回以上参加する。	B	・学期に1回、人権部落問題学習・校内人権集会を実施し、生徒の人権意識の向上・育成に努めた。 ・夏期現地研修や八代市人権集会に参加し、最近の人権問題や法令について学んだ。しかし、全職員が参加することができなかった。
	生徒が的確な教育上の特別支援を受けられる体制の整備	◇障害の有無や個々の違いを認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組	○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別の支援計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実に取り組む。	・授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・必要に応じて人権教育委員会や特別支援教育委員会を開き、個別の支援計画を立てて、支援する。	A	・学期に1回、生徒理解研修を実施して情報の共有を図るとともに、支援が必要な生徒に対しては、個別の特別支援計画に基づき、全職員で支援を行うことができた。 ・困り感をもつ生徒に対しては、家庭に積極的に働きかけを行った。
	命を大切にすることを育む指導	◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成	○すべての教員が学習活動を通し「命を大切にすることを育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をおし、生命や自然に対する畏敬の念を高める。	・教科指導において関連する学習内容を確認し、年間を通じた指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。	B	・各教科が、授業の中で人権への配慮をもって指導にあたるとともに、教科の特色を活かした人権学習指導を行った。 ・人権意識を高めるための活動や研修についても様々な取組が行われたが、学んだことを伝播させる取組が必要である。
いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査により早期発見を行う。	・学期に1回アンケートを実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策会議を開き、実態把握と早期発見・対応を行い、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	B	・学期に1回、心のアンケートを実施して、生徒の状況把握、いじめの早期発見に努めた。 ・スクールカウンセラーを含めたいじめ防止対策委員会を開催して、いじめへの具体的な対応について話し合った。特にいじめの予防策については今後の課題である。

評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
地域連携 (コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの発足	◇地域とともにある学校づくり	○生徒の安全、安心を第一に考え、防災避難訓練を年に2回以上実施する。 ○熊本地震を踏まえた防災マニュアルの作成を行う。	・避難経路の見直しを行い、消防署指導の防災避難訓練を実施する。2学期以降、生徒引き渡しも考慮した防災避難訓練を実施する。 ・防災型コミュニティ・スクール運営協議会等の指導・助言を受けて、災害時における本校の役割等を検討する。	<b>B</b>	・シェイクアウト訓練を含め、年3回の防災避難訓練を実施することができた。引き渡しを想定した訓練や津波を想定した校舎内への避難を行った。 ・防災型CS運営協議会の指導・助言を受けて新たに防災マニュアルを作成した。今後関係機関と連携した避難所マニュアル作成に協力していかなければならない。

#### 4 学校関係者評価

・学校の運営方針をきちんと立て、プログラムを押し進めるやり方が定着してきており、学校が良い方向に向かっているため、修正を加えながらこのやり方を継続してほしい。  
・中高一貫校としての取組が定着してきたように思う。更なる飛躍を期待する。  
・時代にマッチしたグローバル人材の育成というテーマを掲げ、素晴らしい活躍をしていると思うが、学校全体の底上げということにも是非力を注いでほしいと考える。

#### 5 総合評価

・生徒、保護者、職員の学校評価アンケートから得られた肯定的な評価は、概ね70%以上、高いものでは90%以上のものが得られ、昨年度より高いものであった。  
・学校関係者評価において、学校の運営に対して高い評価をいただいた。  
・その中で、昨年度の結果より高くはなったものの、高校・中学共に低かったものは生徒の学習時間の確保についてであった。  
・各部の反省の中で評価が低かったのは、生徒指導上の「交通マナーの向上」と「情報モラルの向上」であり、昨年の件数を上回る事故や違反が見られた。

#### 6 次年度への課題・改善方策

・全体的には学校の運営に対して高い評価をいただいたが、このことに満足せず、更なる躍進を目指して、各部各係で工夫・改善を加えながら更なる高みを目指していくことが大事である。  
・評価が低かった項目である「生徒の学習時間の確保」「交通マナーの向上」「情報モラルの向上」については、改善に力を注ぎ、早急な改善が図られるよう検討していきたい。特に生徒指導上の問題に関しては、命やいじめの問題とも深く関わることであるので、職員一丸となって取り組む体制作りを検討していきたい。